まほろん令和５年度

第３回

館長講演会

- Lecture meeting by the director of mahoron -

「土の器、木の器」

まほろん館長　石川日出志

令和5年9月23日(土)　まほろん講堂13:30～

土の器、木の器

まほろん館長　**石川 日出志**

【導入】　まほろんで９月１６日から「前田遺跡調査成果展」が始まりました。川俣町の前田遺跡からは，縄文土器とともに多彩な木製容器が多数出土しており，その造形の見事さや美しさは息をのむほどです。縄文・弥生時代の考古学では，土器は著しく精緻な研究が蓄積されていますが，木製容器の研究は発見された遺跡も実例も少ないことからまだ未解明の部分が少なくありません。それだけに前田遺跡の木製容器の研究には大きな期待が寄せられています。

本日のこの講演では，戦前以来，各地の縄文・弥生時代遺跡から発見された木製容器を紹介して，今後，前田遺跡の木製容器類を考える際の参考になればと思います。

土器と木製容器とは何が違い，どのように作り・使い分けられたのでしょうか。また、関連し合うのでしょうか。

１．わが家の台所から考える：　土の器と木の器はどのように使い分けられているか

①．土の器とその仲間：　陶器・磁器　→→

②．木の器とその仲間：　木器・漆器・合成樹脂　→→

（金属製の器：　真鍮製・銀製…）

＊ ご飯茶碗と汁椀の使い分けはなぜ？　伝統的な菓子皿が木製なのはなぜ？

⇒　では，縄文・弥生時代の土器（土製容器）と木製容器の作り分け・使い分けはどうだったのだろうか？？？

２．戦前に発見された縄文・弥生時代の木製容器

（１）縄文時代：　青森県八戸市是川（中居）遺跡（縄文時代晩期）　【図１】

★文献：杉山壽榮男 1932『日本石器時代植物性遺物図録』刀江書院，杉山 1942『日本原始繊維工芸史（原始篇・土俗篇）』雄山閣，小林行雄 1951『日本考古学概説』創元社

①．漆塗木製容器（高杯・鉢），籃胎漆器（鉢）

＊「籃胎漆器」の「胎」は，漆を塗る器本体のこと。なので，通常の漆器は「木胎漆器」、土器に漆を塗ったものは「陶胎漆器」となる．

・縄文時代の容器は土器だけではないことが実物資料からわかった．

②．土器との関係とどう関係するのか？　製作や使用上の違いは？

（２）弥生時代：　奈良県磯城郡唐古（・鍵）遺跡（弥生時代前～後期）　【図２・３】

★文献：末永雅雄・小林行雄・藤岡謙二郎 1943『大和唐古弥生式遺跡の研究』京都帝国大学

①．弥生前～中期の木製容器（赤彩を含む）：　高杯・鉢・筒形・匙など

鮮やかに彩色された木胎漆器も

②．土器との関係

・土器の高杯のうち水平口縁の類は木製高杯の形態を土器に転写したものだという見解が出される．＝土器と木器の相関があることに注目．

３．戦後～最近発見された木製容器を加えて，土の器と木の器の関係を考える

（１）縄文時代：

①．埼玉県さいたま市寿能遺跡（縄文後期中頃）　【図４】

★文献：埼玉県立博物館 1984『寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書』埼玉県教育委員会

・各種の鉢．把手付の木胎漆器

・同時期の土器とは全く異なる形態・装飾

②．新潟県胎内市分谷地Ａ遺跡（縄文後期中頃）　【図５】

★文献：伊藤崇 2003『分谷地Ａ遺跡Ⅱ』黒川村教育委員会

・寿能遺跡で断片が見えた把手部の様子が分かる

・持ち方（用い方）を考える

③．青森県八戸市是川中居遺跡（縄文晩期）　【図６】

★文献：村木淳・小久保拓也・杉山陽亮 2005『是川中居遺跡４』八戸市教育委員会

・80 年あまりぶりに姿を現した是川遺跡の木胎漆器！

・精製土器とよく似ることに注目≒　亀ヶ岡式土器の精製土器は陶胎漆器なのでは？

（２）弥生時代：

①．鳥取県鳥取市青谷上寺地遺跡（弥生時代中・後期）　【図７】

★文献：野田真弓・茶谷満（編）2005『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告１　木製容器・かご』鳥取県埋蔵文化財センター

・中期は木製高杯の形態が土器に写される

・後期になると木製高杯が大きく発達して土器に転写されなくなる

②．大阪府池島・福万寺遺跡，山賀遺跡．奈良県唐古遺跡（弥生時代前期）　【図８】

★文献：上西美佐子ほか 1979『山賀（その３）』大阪文化財センター，井上智博ほか 2002『池島・福万寺遺跡２』大阪文化財センター，末永・小林・藤岡 1943『大和唐古弥生式遺跡の研究』京都帝国大学

・唐古遺跡以外でも近畿圏で木胎漆器が明瞭であることが再認識される

・木胎漆器は著しく装飾性に富む　→　土器に転写される

（３）土器との関係を考える

①．土器と木製容器

Ａ：　木胎漆器など木製容器が独自の形態をとる場合

Ｂ：　木製容器の特徴を土器に転写する場合

＊木製容器は彩色率が高い傾向があり，形態だけでなく装飾も転写される場合がある

Ｃ：　縄文晩期亀ヶ岡式では，精製土器が陶胎漆器とみた方がよいのでは？

②．木製容器の特徴を土器に写した器種は高杯が顕著だがそれ以外もある

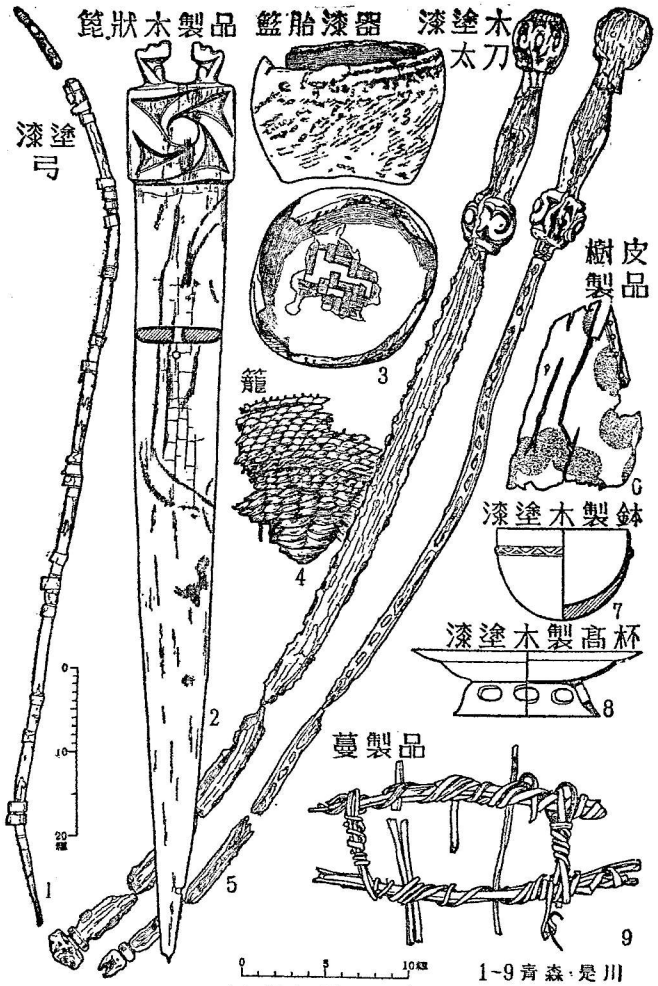
③．亀ヶ岡式の伝統は弥生土器に継承される：磨消浮帯文　　【図９】

★文献：石川日出志 2003「福島市孫六橋遺跡出土弥生土器の再検討」『福島考古』44，石川日出志 2005「縄文晩期の彫刻手法から弥生土器の磨消縄文へ」「地域と文化の考古学」Ⅰ，六一書房

まとめ

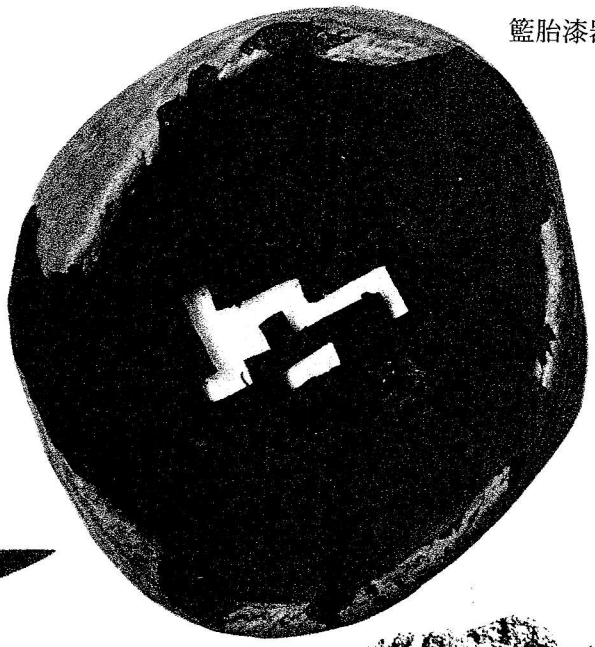
縄文･弥生時代の考古学は長らく土器に重点を置いて考えてきた。土器はどこでもよく残り，また大量につくり・使われ，廃棄されたために研究上有効であった。しかし，土器をより深く知るためにも木製容器を知る必要がある。木製容器は土器の見方にも広がりを持たせる。

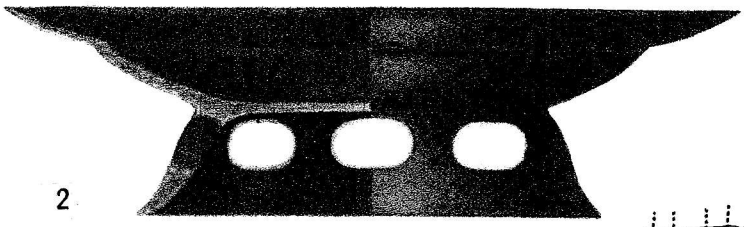
以上

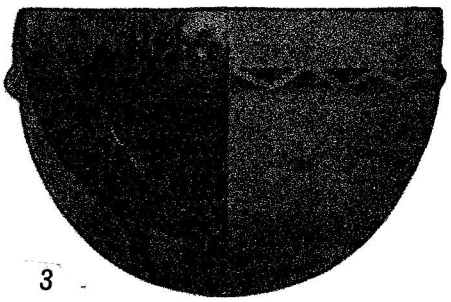


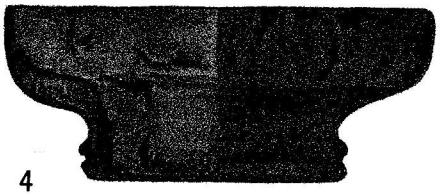
(小林行雄 1951)

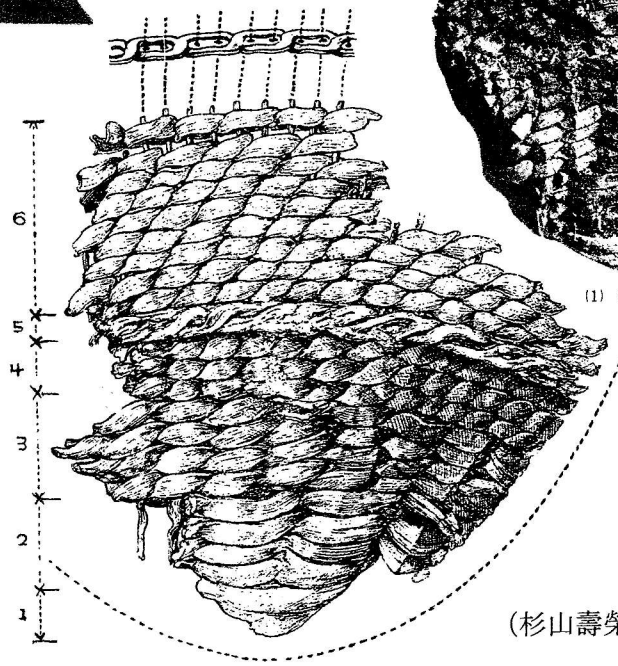
籃胎漆器











籠の断片

(杉山壽榮男 1932・1942)

図1 1926年に発見された八戸市是川中居遺跡の縄文晩期の木製遺物

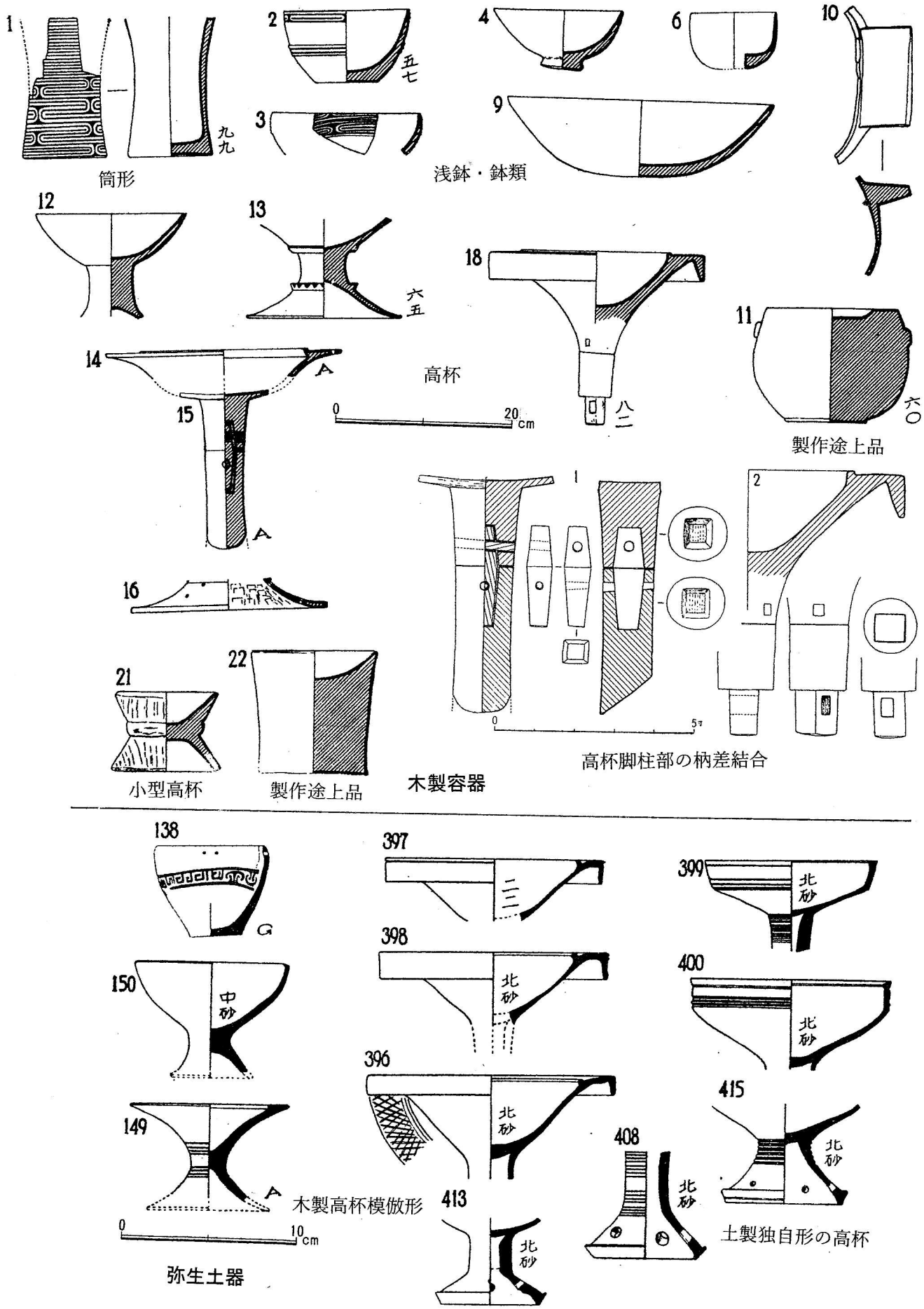


図２ 1937 年に発掘された奈良県唐古遺跡の木製容器と土器（末永・小林・藤岡 1943）

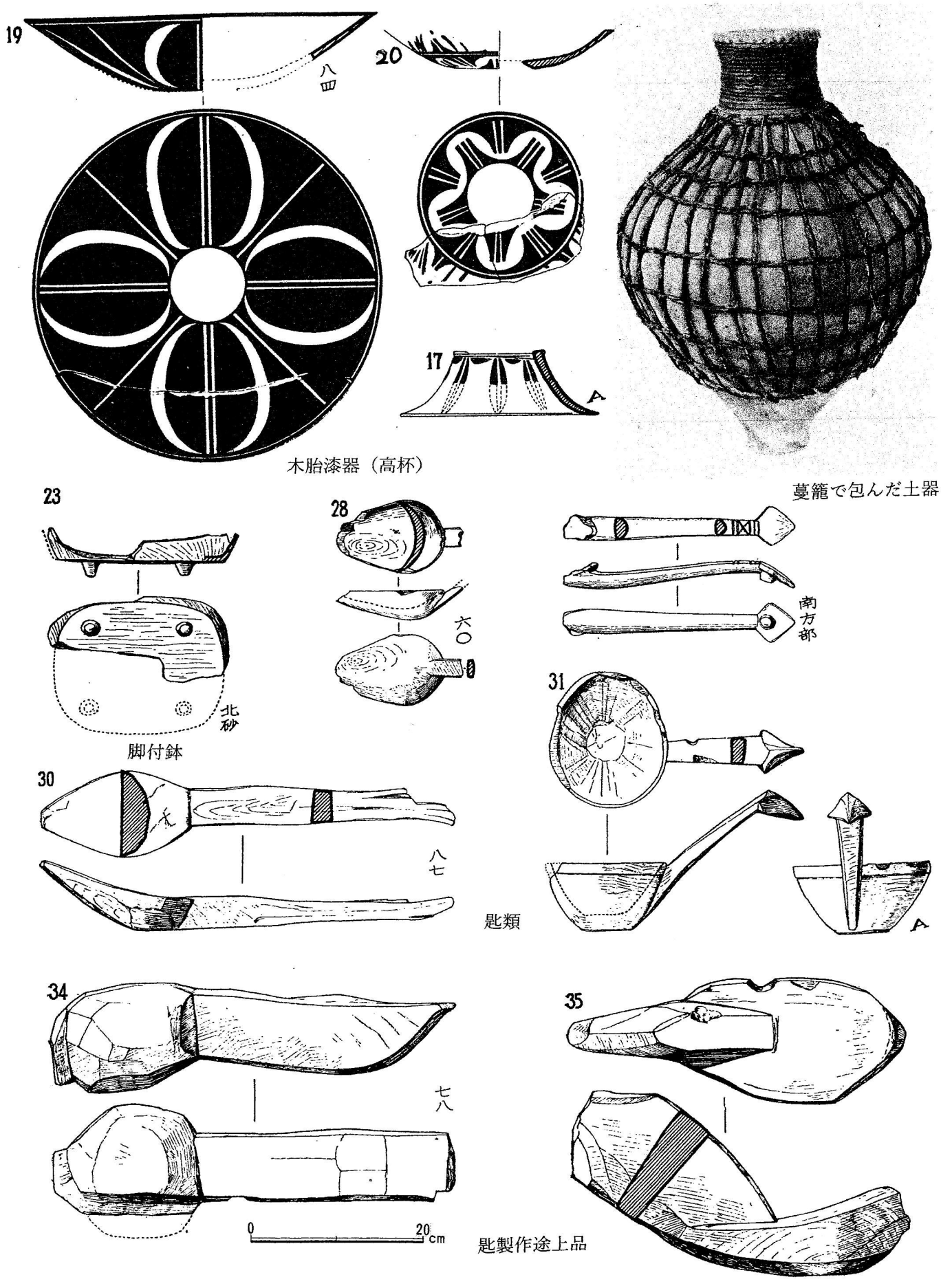
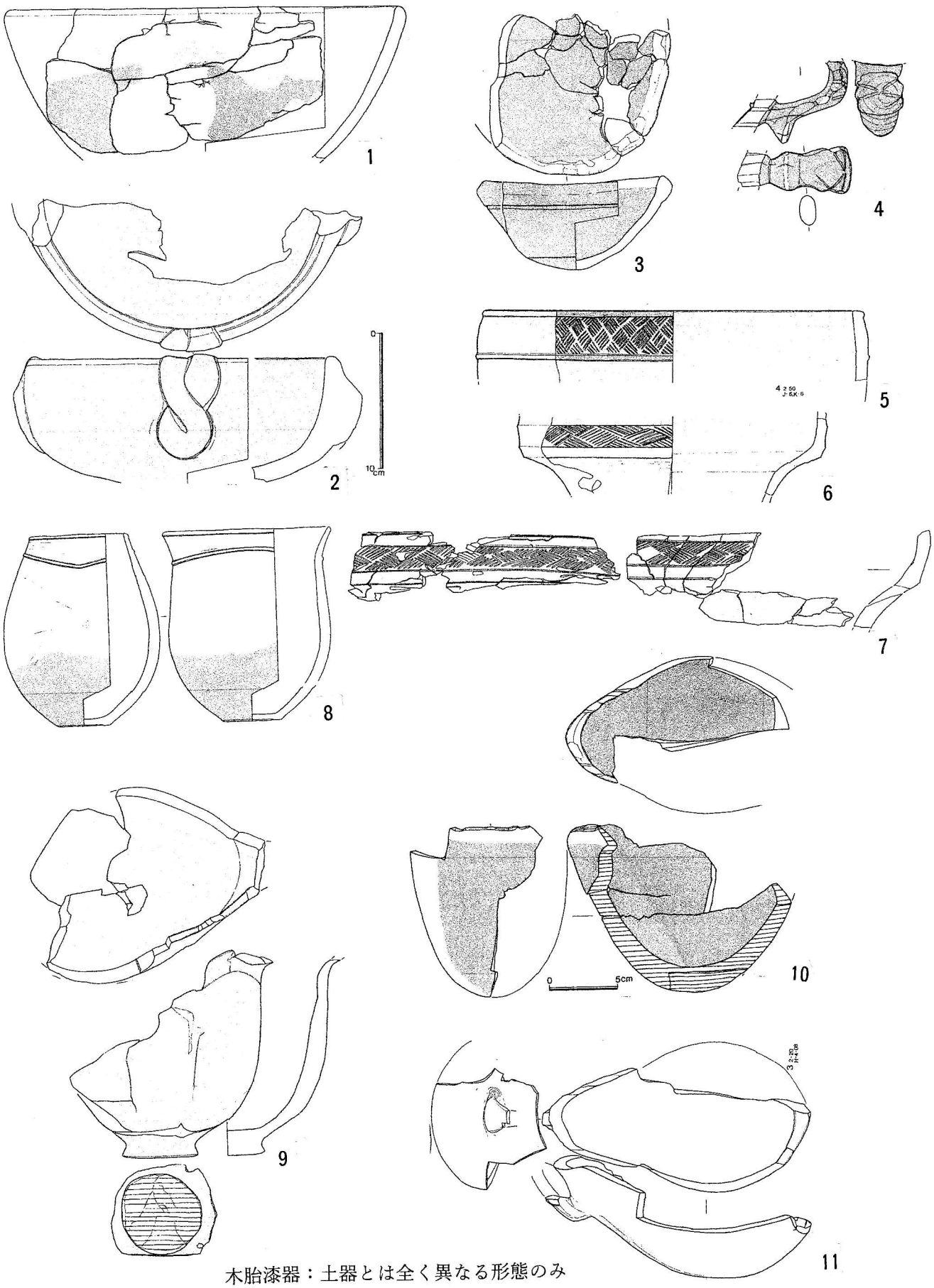


図３ 1937 年発掘：奈良県唐古遺跡の弥生時代の木製容器（末永・小林・藤岡 1943）



木胎漆器：土器とは全く異なる形態のみ

図４ 1979-81 年発掘：さいたま市寿能遺跡の縄文後期・木製容器（埼玉県博 1984）

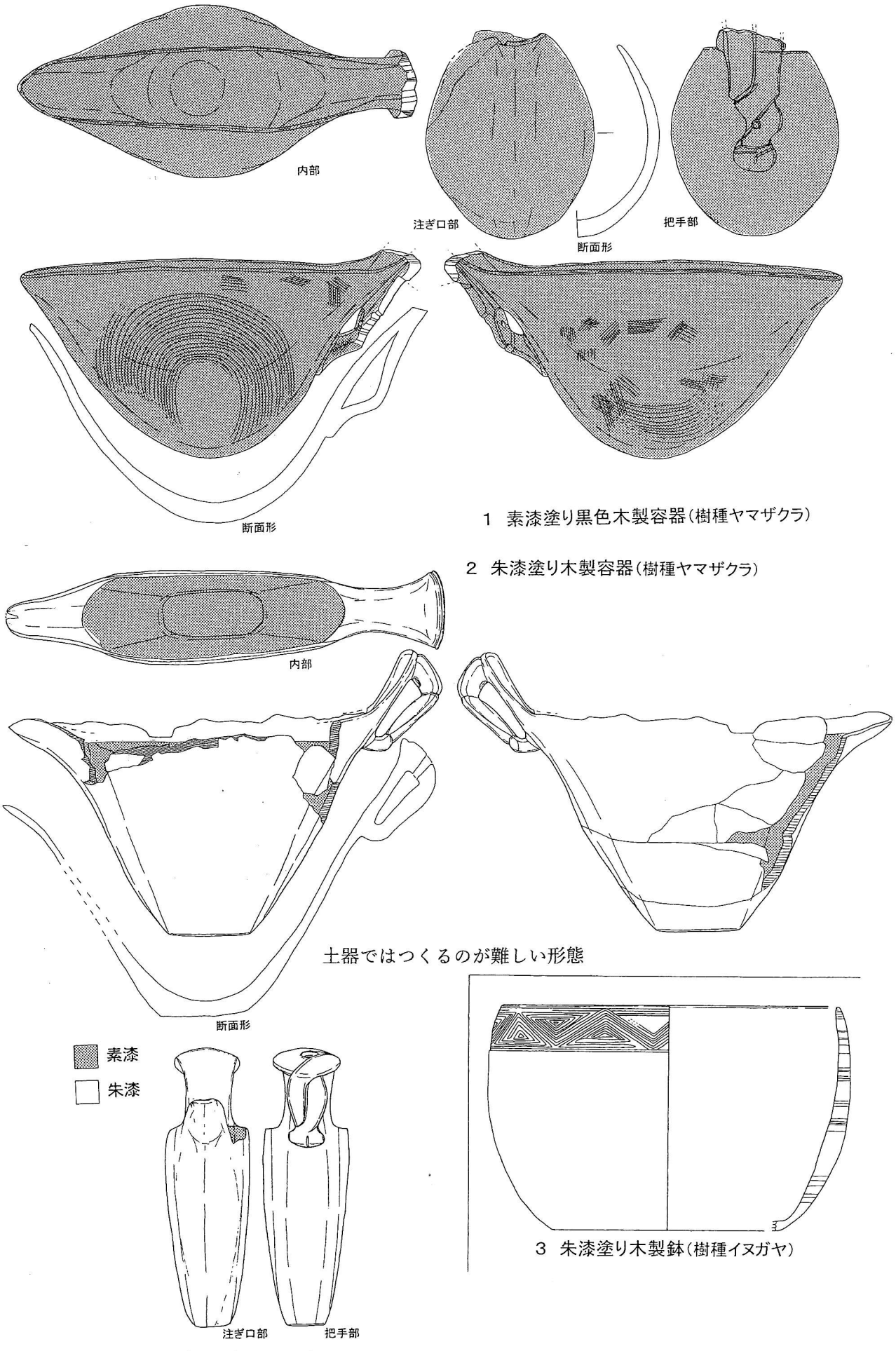
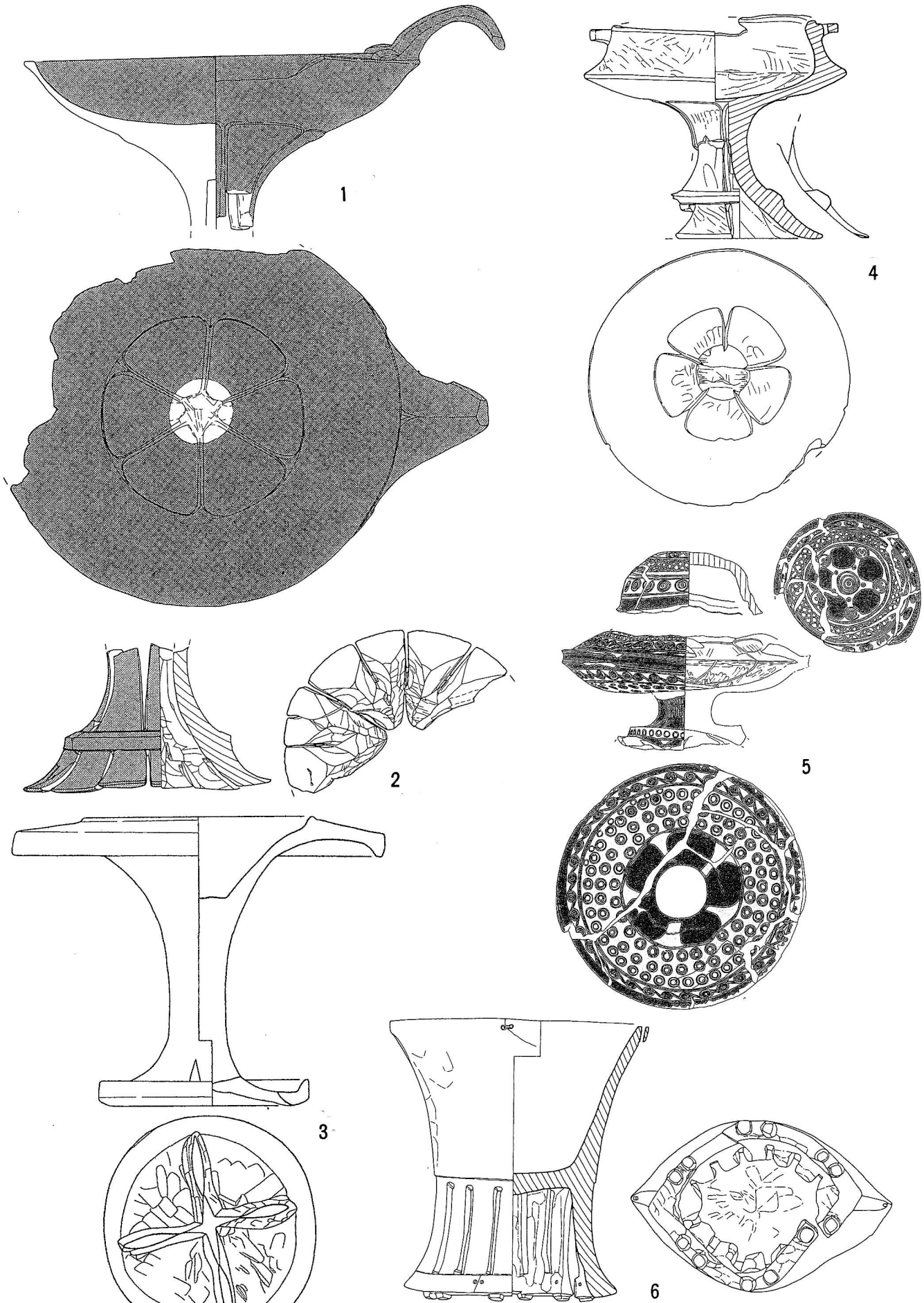


図５　2001 年発掘：新潟県胎内市分谷地Ａ遺跡の縄文後期・木製容器（伊東 2003）

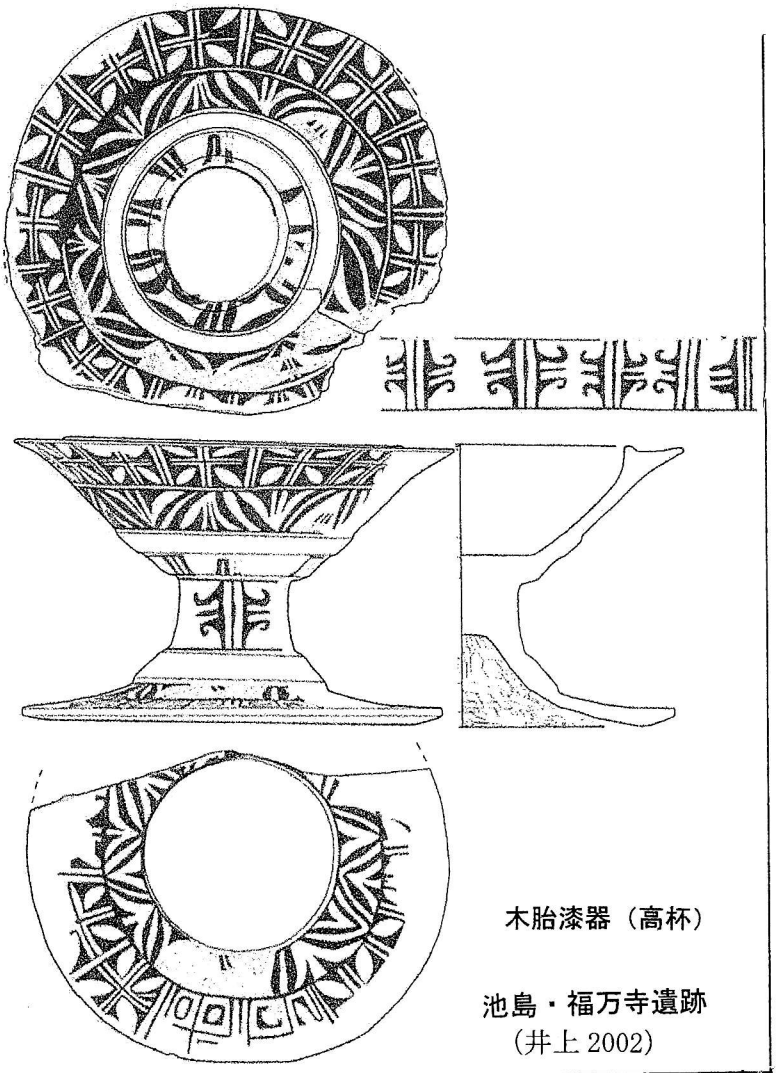
図6 2002-3 年発掘：八戸市是川中居遺跡の縄文晩期・木製容器と土器

(村木・小久保・杉山 2005)



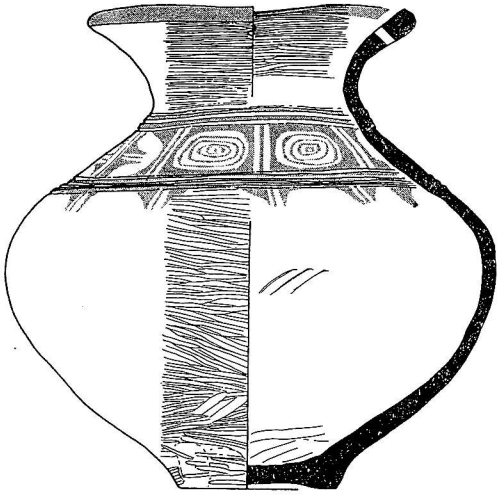
下２点：中期，それ以外：後期　　（野田・茶谷 2005）

図７　1998-2001 年発掘：鳥取市青谷上寺地遺跡の弥生中・後期の木製容器　木胎漆器

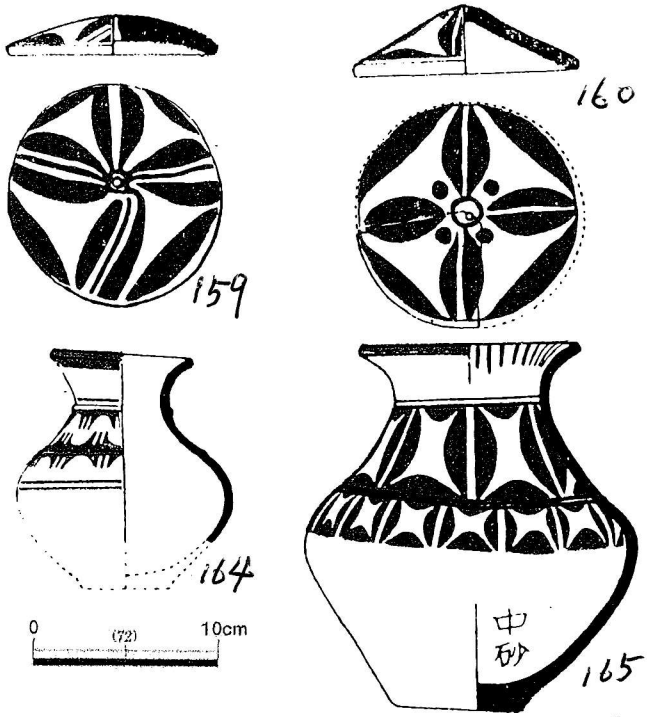


木胎漆器（高杯）

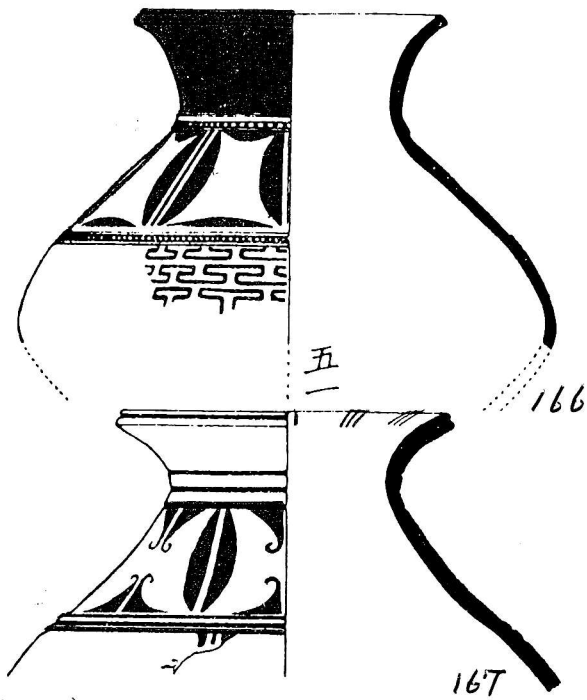
池島・福万寺遺跡
（井上 2002）



山賀遺跡（上西ほか 1979）

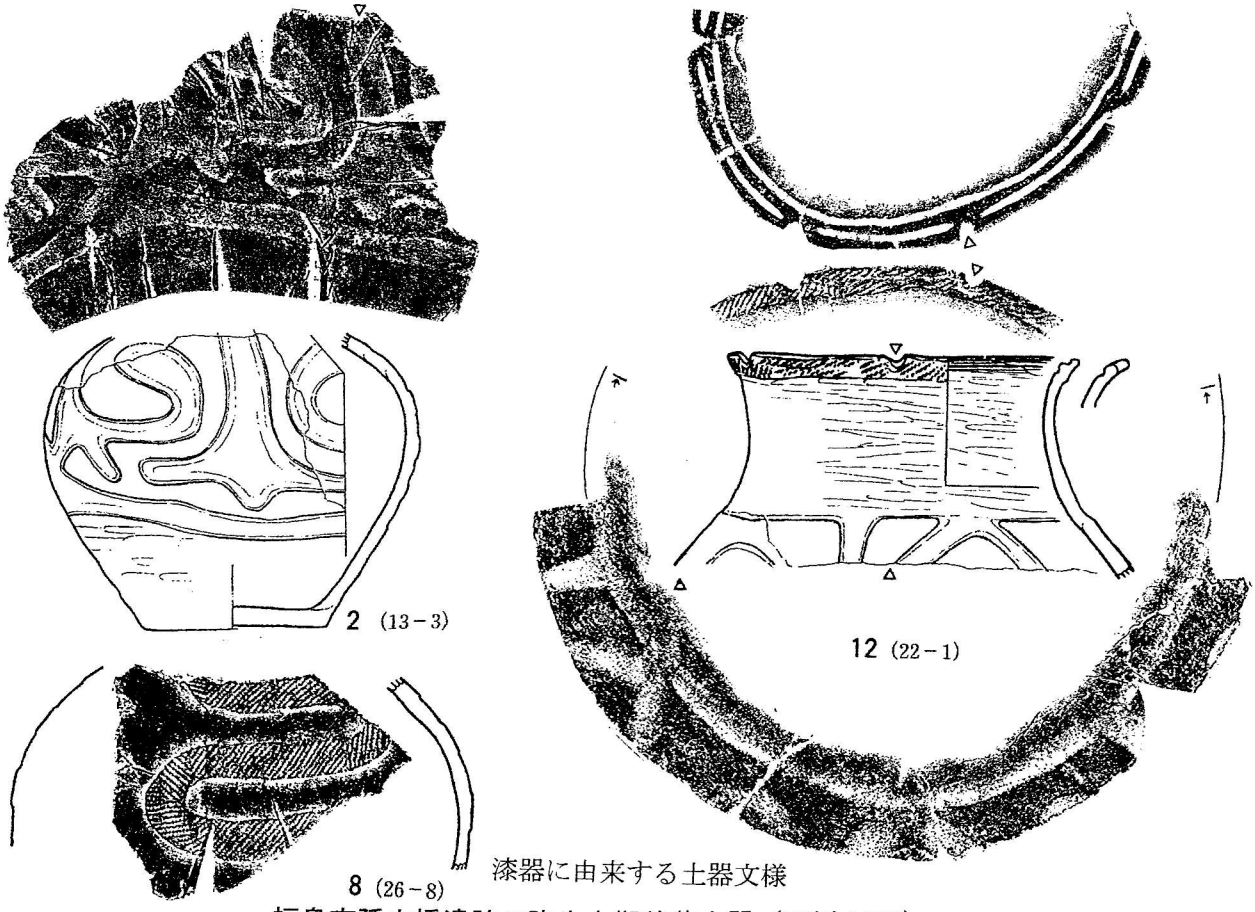


唐古遺跡（末永・小林・藤岡 1943）

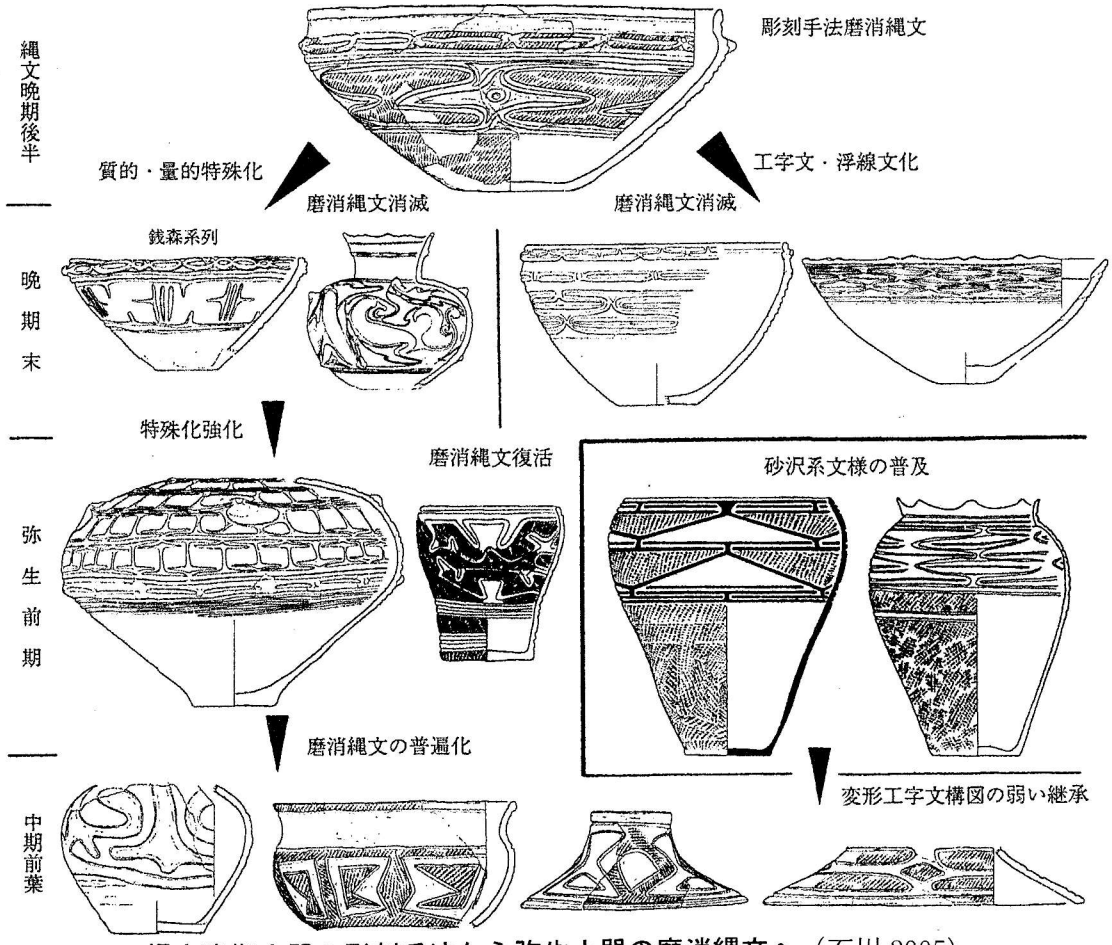


面をなす装飾手法が土器に転写される

図８ 近畿の弥生前期の木製容器と彩文土器



福島市孫六橋遺跡の弥生中期前葉土器（石川 2003）



縄文晩期土器の彫刻手法から弥生土器の磨消縄文へ（石川 2005）

図９ 陶胎漆器の伝統が弥生時代中期前葉まで続く